

協同労働という新しい働き方について

＜埼玉西部地域福祉事業所の実践事例＞

日本労働者協同組合（ワーカーズコープ）
センター事業団 埼玉事業本部
須賀貴子



協同労働とは



森のとうふ屋さんの
手づくり菓子工房

私たちが大切にしていること

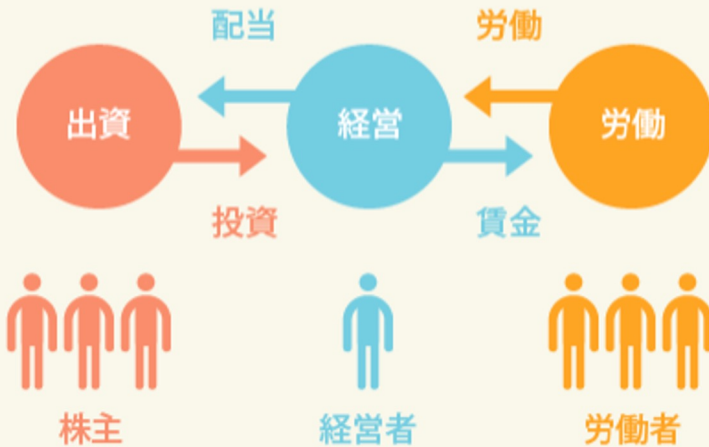
1. 働く人が「出資」「経営（運営）」「労働」の全てを担う
2. 「あったらいいな」「やってみたい」ことを、カタチにする（仕事おこし）
3. 利用者、地域、事業所で必要な仕事、改善点は、みんなで話し合う
4. もちろん、事業を継続するためには利益を得られるように務めます。
5. しかし、私たちが求めるものは、互いに認め合い、支え合い、自分らしく働けること
6. そして、「働くこと」を通して地域を元気にすることです
7. 組合員も地域に暮らす市民です。市民の力でよりよい暮らし・地域づくりを目指しています



株式会社と協同労働の比較

株式会社

の仕組み



協同労働

の仕組み



日本における 労働者協同組合

①日本労働者協同組合（ワーカーズコープ）連合会

中高年や日雇い労働者、失業者が集まり、70年代に立ち上げ。
就労者 16,140人・事業高 約351億円（2019年度）

②ワーカーズコレクティブ・ネットワーク・ジャパン

生協運動からの派生。全国340団体 就労者 約8,000人
事業高 約123億円（2017年末時点）

③農村ワーカーズ（農村女性起業）

④障がい者福祉での協同労働組織



労働者協同組合法

この法律は、各人が生活との調和を保ちつつその意欲及び能力に応じて就労する機会が必ずしも十分に確保されていない現状等を踏まえ、組合員が**出資**し、それぞれの**意見を反映**して組合の事業が行われ、及び組合員自らが**事業に従事する**ことを**基本原理**とする組織に関し、設立、管理その他必要な事項を定めること等により、**多様な就労の機会を創出**することを促進するとともに、当該組織を通じて**地域における多様な需要に応じた事業**が行われることを促進し、もって**持続可能で活力ある地域社会の実現**に資することを目的とする。



実践紹介

埼玉西部地域福祉事業所

森の102工房・森のとうふ屋さんの手づくり菓子工房



森のとうふ屋さんの
手づくり菓子工房

概要

- 埼玉県所沢市
- 2012年7月開所
- 事業所のテーマ
～障がいの有無関係なく、誰もが安心して働き、
暮らしていける地域づくり～
- とうふ製造・販売／就労継続支援B型
(菓子製造・販売、農作業、手しごと、清掃、事務処理)
- 就労者数48名（組合員 21名、就B 27名）

【経営状況】

- 2012年度 原価率 919.1%
- 2021年度 原価率 88.9%



埼玉西部地域福祉事業所

2012年

森の102工房

森のとうふ屋さんの
手づくり菓子工房
(就労継続支援B型)

2018年

とうふ・ゆば
製造・販売

狭山ヶ丘店
とうふ・菓子
販売

2018年

移動販売車

菓子製造
手しごと
(刺繍)

2017年

農作業

2019年

清掃
PDF作業

2021年



農業



とうふ・湯葉製造



菓子製造・販売



手しごと



内職
(煎餅の袋詰め)

高齢者施設内の消毒



事務処理



立ち上げの経緯

- 2009年『ガイアの夜明け』で“深谷とうふ工房”が放映。
- 現在の大家さんから法人本部へ電話が入る

「うちもとうふ屋をやっていた、是非もう一度やりたい」

「障がいのある方も働いていた」

- 生活保護受給者・働きたくても働けない若者の増加、派遣切りが社会問題に

とうふ屋
継業



働きたくても
働けない



森のとうふ屋さんの
手づくり菓子工房



【立ち上げメンバー】

生活保護受給者	4名
派遣を転々した若者	1名
働くことに困難さがある	2名

とうふ工房の前身「太陽食品工業」の看板と以前から働いていた「信さん」（湯葉製造担当）



森のとうふ屋さんの
 手づくり菓子工房

2012年11月～ 地域に向けたイベントを開催



大試食会



もちつき
 大会



クリスマス
 コンサート



映画会

2013年3月～ ファームドウ 食の駅にて 取引スタート



とにかく販路拡大。
 新店舗オープンの情報を
 聞けば、営業。
 フェイスを死守。



森のとうふ屋さんの
 手づくり菓子工房

感じ始める“矛盾”

- 生産性の向上・効率優先
- 働くことに困難のある仲間を失う
- 売上は伸びてきたが、支出も増加
- 売上の頭打ち



もう一度、理念に立ち返ろう



森のとうふ屋さんの手づくり菓子工房 立ち上げ

<<立ち上げ時の思い>>

「まちのお菓子屋さんに障がいのある人も働いている」
そんな風景が当たり前の社会になるように

施設ではない**自慢**できるお店づくり：

「かわいい」「すてき」「おいしい」「たのしい」





Before



の



きづくり菓子工房

After



商品のコンセプト

- 豆乳・おからにこだわる
- 保存料、香料等は使用せず、素材の味を生かす
- 出来る限り、国産・地元産の材料を使用
- 障がい売らない。
- 味、見た目で勝負
- 障がいの有無関係なく、商品開発は全員



2018年 1月 狭山ヶ丘店OPEN

- 他店に納品・・・販売手数料約3割！
- いくら頑張っても、手数料分マイナス
- 廃棄は出したくない、でもフェイスは守りたい・・・矛盾
- 林の中でお客が来ない
- 立地が良いところで、自由に売りたい！
- 森のとうふ工房・菓子工房を発信できる拠点がほしい！
- 地域の特産品も並べたい！





お店の外観



店内の様子。改装は自分たちで



ちょっと小洒落たとうふ屋さん



自分たちで育てた野菜も販売



無茶々園の温州みかんジュース
人気です！



森のとうふ屋さんの
手づくり菓子工房

協同労働の原点 一人の困りごとから

- 働く場の存続！
- 話し合いの中心
「どうしたら働きやすくなる？」
- 一人ひとりに合せた働き方
- 「困ったら、仕事おこし」



今後の課題

①対等性の担保

制度を使うとどうしても二分してしまう

理念は「ともに働く仲間」だけど、現実的には・・・

②地産地生・地域内循環の拠点づくりへ

菓子工房の移転・拡張

★組合員や事業所課題の仕事おこしから

社会連帯・地域ニーズの仕事おこしへ

③障がいのある人も安心して働き、 暮らしていける地域づくり

★自立生活を支え合える関係性づくり

★本当の意味での豊かさとは・・・



ワーカーズコープ・埼玉西部地域福祉事業所
(森の102工房・森のとうふ屋さんの手づくり菓子工房)が
季刊誌『コトノネ』に紹介されました。

『コトノネ』vol.42 p36~p44
連載「協同労働」という生き方2

2012年7月に立ち上がった 森の102工房。

協同労働という働き方で「支援する一される」
関係性を越え、「ともに生き、ともに働く」仲間と
出会いました。経営改革、団づくり、仕事おこ
し...幾多の困難を仲間と共に乗り越えてきま
した。そんな森の102工房の物語が「ぎゅっ」と
詰まっています。



『コトノネ』の紹介

障害者の「働く姿」を通して「生きるよろこび」を伝え
たくて生まれた雑誌です。(本文より)
障害者就労、農福連携、地域づくり...社会の中にある
「障害」や「矛盾」を様々な角度から取り上げています。
生きるヒントが沢山詰まっています。
定価1,100円(税込)送料別

ご注文方法 ご記載の上、メール又はFAXでお送りください

お名前	ご注文部数	部
電話番号	FAX番号	
メールアドレス		
お届け先住所		
ご請求先		

メールでのご注文は
morinokashi@roukyou.gr.jp

FAXでのご注文は
04-2936-6001

『コトノネ』vol.42



コトノネの本は裏面も
ご覧ください

お問合せ先: 森のとうふ屋さんの手づくり菓子工房 Mail: morinokashi@roukyou.gr.jp Tel: 04-2936-6001 担当: 須賀

おわりに

「矛盾に幸あれ！」

(「コトノネ」 vol.42)

白黒ははっきりさせない(できない・
させたくない) 部分こそ、本当の
「豊かさ」や「価値」があるのでは
ないか。

その価値を大切にするのが「協同労働」であり、「協同労働」がその価値を気づかせてくれる。



森のとうふ屋さんの
手づくり菓子工房

ご清聴ありがとうございました



森のとうふ屋さんの
手づくり菓子工房